

第26年度（2024年度）事業計画

事業目標

「地域子どもたちが交流できる機会の創出と活動を届けるための準備を行なう1年に」

昨年度は、コロナ禍が明け、これまで活動を休止していた体験活動や交流活動を行なうことが出来ました。

しかし、この4年で変化したスタッフや参加者のライフスタイルに合わせた実施方法、内容に変化をしているため、これまで同様の回数、規模まで実施できているわけではありません。今後も社会の変化に合わせて活動も変化をしていくべきですが、少なくなった体験、交流の機会は創出していきたいと思えます。

そのため、今年度も引き続き、体験活動、交流活動の充実をはかると共に、事業を継続実施していくために、運営体制の強化や資金の確保を行なっていく必要があります。以下の4項目に分けて、この1年取り組んでいきます。

1. 子どもの体験活動の検討
2. 交流企画の実施
3. 運営体制の構築
4. 継続した運営財源の確保

1. 子どもの体験活動の検討

再開した体験事業を継続実施すると共に、昨年度で終結した事業を今後どのように実施していくのかを検討します。体験活動への子どもからのニーズもあるため、活動内容、実施体制を早急に検討し、実施します。合わせて、体験活動に参加するボランティアが少なくなっているため、活動を実施していくためのボランティアの確保と育成を行なっていきます。

2. 交流企画の実施

昨年度は会員、関係者向けのこどもフェスタを実施することができました。また、クリスマス会を9年ぶりに実施するなど、コロナ禍で実施できていなかった会員や各活動、関係者との交流できる機会となりました。その中で、参加者からの声もあり改めてこどものひろばらしい活動の必要性を感じました。そのため、今年度も会員、関係者が交流できる企画の実施をしていきます。

3. 運営体制の構築

事務局の運営体制がこれまでと異なり、常勤職員が減り、非常勤職員の人数が増えることとなります。様々な働き方をする職員が増えることにより、事務局内だけでなく、事業間でも情報共有を密にできる体制を構築します。また、今後も様々な働き方に対応できる体制について検討していきます。

4. 継続した運営財源の確保

この4年間赤字決算が続いておりますが、経費の見直しを行なうことにより、赤字額を少なくしてきました。その中で昨年度は寄付金収入、自主事業収入が増加したことで、これまで以上に収支の差を少なくすることができましたが、赤字決算は続いております。今年度はさらに収支の差を少なくし、事業の継続実施と充実、そのための運営体制強化をするための財源を確保してだけでなく、今後大きな社会変化が起きた時に、それに耐えうる財政基盤を強化していきます。

第26年度 各事業計画(1)

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	-	-	-	-	-	-
子どもが自 ら創る体験 活動事業	こどもフェスタ 小規模で子どももおとなも楽しみ、 交流できる祭典を実施する。	秋頃	西御坊	15人	会員、関係者の 子どもと大人 100人	100
	子どもの体験活動事業 子どもたちの体験活動(野外体 験)を実施する。	通年	地域一円	5人	子ども:80人	100
	わんぱくクラブ 幼児・低学年部の子どもたちを対 象に、野外活動などを実施する。	通年	みささぎの森他	5人+ボラン ティア	就園児年少から小 学3年生15人	90
	町たんけん 旧スタッフでの活動としては、ふり かえり会、ガイドブック配布など、 残務のみ行います。	-	-	-	-	-
子育てサ ポート事業	げんきスポット0-3(ぞろさん) 未就園児を持つ親と、その子ども 達のサポートを常設会場「げんき スポット0-3」にて実施する。屋根 のある公園を目指す。 充実事業の委託として げんきス ポット0-3を飛び出して地域の場 での支援を行う。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット0- 3	21人 (ボランティア8 人 講師4人)	地域の 子どもと大人 のべ6500人	7108 (委託金 6944)
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手な子どもや、学習 機会の少ない子ども、また経済的 等の理由で体験活動の機会がな い子どもへの個別(生活・学習・余 暇)支援事業。	通年	地域一円	-	-	-
	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手な子どもや、学 習機会の少ない子ども、また経済 的等の理由で体験活動の機会が ない子どもへの個別(生活・学習・ 余暇)支援事業。コロナ禍の影響 を受けた家庭に食材・衛生用品の 配布支援も実施する。 ※京都地域創造基金事業指定助 成事業 ※近畿ろうきん「笑顔プラス」寄付	通年	地域一円	30人	地域の子ども: のべ300人	1230 (助成金1000)
	山科醍醐地域ひとり親家庭等へ の生活・学習・居場所サポート事 業 伏見区醍醐・小栗栖地域を中心 に、小学校高学年の子どもとその 家族へのサポートを行う。 ※京都府委託事業	通年	地域一円	30人	子ども: のべ300人 保護者: のべ15人	9400 (委託金9400)
ボランティ アサポー ト事業	ボランティア・研修部 ボランティア希望者の、各事業へ のコーディネートを行なう。 ボランティア活動に参加する際 の、子どもとのかかわり方や、参 加者が希望する内容の研修会を 定期的実施する。	通年	当法人事務所	4人	-	-
	研修会 定期開催のスキルアップ研修会を 行なう。	通年	当法人事務所	2人	のべ50人	50

第26年度 各事業計画(2)

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
ボランティア サポート 事業	講師派遣・インターンシップ受入 事業 当法人スタッフの講師派遣及び当 法人におけるインターン希望者の 受入を行う。	通年	地域一円	4人	—	1,000
	のびのび@たいむ のびのび事業の利用を終えた高 校生等の居場所とボランティア推 進事業。	通年	地域一円	2人	20人	—
広報・出版 事業	ひろばつうしん 会員向け情報誌「ひろばつうしん」 の発行。 イベントや活動の参加募集チラ シ、外部団体のチラシなども発 送。	月刊	—	—	150部を12回	—
	コッペパン 広報誌「コッペパン」の発行。	不定期	—	—	—	—
	ひろばの本 「貧困とひとりぼっちのないまち」 「まちのこどもソーシャルワーク」 の頒布を通じて、ひろばの広報や 社会への啓発を進める	通年	—	—	—	—
	サポートBOOK 「子どもの貧困課題に地域で取り 組む支援者のアクションサポート BOOK」の頒布、活用。 読書会の開催。	通年	—	—	—	—
ネットワー クづくり事業	ホームページ 当法人におけるホームページの 定期的な更新情報の発信及び、 基本情報の公開を行う。	通年	—	—	—	—
	分野連携ボランティアネットワー ク事業 当法人登録ボランティアと子ども 分野の活動団体とのネットワー クづくりを行う。	通年	—	—	—	—
	山科子育て応援団 社会福祉協議会を事務所として 山科で子育てサークルや子育て 支援をしている諸団体との交流を 行う。子育て支援サロンを開催す る。	通年	社会福祉協議会 他	—	—	—
	中学生勉強会(おぐりす・だいが ・醍醐支所) 生活保護受給者等中学生学習支 援プログラム。 ※京都市ユースサービス協会委 託事業	通年	醍醐事務所 トハウス 醍醐支所	20人	おぐりす5人 だいが5人 醍醐支所15人	2713 (委託金2713)
	みんなの家 フリースペースとして開放。 (主催:社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	こども生活支援セ ンター	—	—	—
	企業との連携 企業からのボランティア体験の受 け入れや、イベントでのボランテ ィア呼びかけなど。 その他、東山ロータリークラブと協 同でイベントを実施予定。	通年	—	2人	—	—